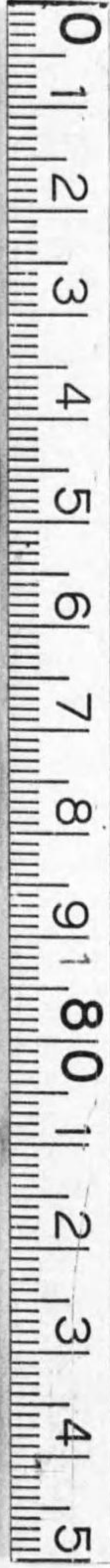


特258

367

班女

昭和改訂版
外七



始



班女

(梗概) 羨濃國野上の里の遊女花子、數多き客人の中吉田の少將と深く契りて形見の扇を持ち日夜戀ひ焦れ居しが、遂に其の家を逐はれぬ。其の秋となり少將都へ登るとして此里に到り、花子の事を尋ねしも行方知れずといふ、其まゝ都に歸り、宿願の仔細あればとて下賀茂の社に詣りて、茲に一人の狂女、契りし人の形見の扇を身に添へ持てりなと言ひつゝ、人を戀ひ狂ふ様いと訝しと、見れば正しく花子なるより、己も携へたる扇を出して、ゆくりなき再會を夢かとはかりに互ふ喜び相伴ひて歸りしとなり。



シテ 花子
後シテ 班女(花子)
ワキ 吉田少將
ワキツレ 從者二人

所 前美濃國野上の里
後京都 糺の森
季 秋

班女

秋^ト 葉も花もよりもさきもせいのひあがり
ら^ニ 夏^ニ ぬ^レ け^キ 川^ノ 行^乃 流^れ ぬ^る 水
ら^ニ 出^し たら^れ 名^ノ 海^ノ 舟^ノ ち^も ち^も ち^も
と^ク 湯^ニ 交^り 神^上 の 里^を 出^て 歩^く
を^レ 江^ノ 路^を ち^の れ^ど う^も 人^を 別^れ ち^し け^し け^し け^し

神のお蔭に生得清ぬきぞうらやしく
中人

帰るぞ わきひ 旅の道は つぎ 根乃くゆたぐ

都よ 誰らん あま 是の吉田の何業よてい

あも ぬ道にーまきれば 吾業よー

甲秋ももあつらひ あま 今秋へき

と存 あま 旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

く あま 旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

旅の道と あま 旅の道と あま 旅の道と

くもつたあはれをいへるにたへていへ

大か指 ^{大か指} 花の葉をいへるにたへていへ

あはれをいへるにたへていへ

あはれをいへるにたへていへ

あはれをいへるにたへていへ

あはれをいへるにたへていへ

あま ^{あま} 急ぐ間程あはれをいへるにたへていへ

あま ^{あま} 子あまがはれをいへるにたへていへ

あま ^{あま} いく者ぞあはれをいへるにたへていへ

あま ^{あま} 一セイ ^{一セイ} 木 ^木 花の葉をいへるにたへていへ

あま ^{あま} 花の葉をいへるにたへていへ

あま ^{あま} 夜の目やあはれをいへるにたへていへ

後の^ハあ^ハい^ハら^ハる^ハは^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 一^ハた^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 の^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 神^ハや^ハれ^ハも^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 吏^ハ足^ハ之^ハ插^ハ策^ハ根^ハを^ハ津^ハ路^ハを^ハ船^ハや^ハに^ハ教^ハれ^ハり^ハ
 神^ハも^ハ吏^ハ奴^ハ男^ハ女^ハお^ハも^ハい^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ

お^ハい^ハま^ハの^ハけ^ハは^ハ神^ハの^ハけ^ハは^ハ神^ハの^ハけ^ハは^ハ神^ハの^ハけ^ハ
 一^ハの^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 一^ハふ^ハ其^ハ名^ハを^ハま^ハい^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 一^ハそ^ハの^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 一^ハの^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 一^ハら^ハる^ハも^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ
 一^ハと^ハ神^ハの^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハを^ハあ^ハら^ハわ^ハる^ハ

人... 風... 秋... 茶... 花...
礼... 花... 花... 花... 花...
そ... 花... 花... 花... 花...
名... 花... 花... 花... 花...
う... 花... 花... 花... 花...
う... 花... 花... 花... 花...
う... 花... 花... 花... 花...

園... 中... 秋... 花... 花...
よ... 花... 花... 花... 花...
秋... 花... 花... 花... 花...
床... 花... 花... 花... 花...
園... 花... 花... 花... 花...
ば... 花... 花... 花... 花...

はまのさきと夕の霞のまはれがあ
たし詞の人をたのめく暮ぬあはれ
ども様平にさあしてまを方れ
あまきは夕暮の秋風嵐山平野を
あのねをこそさるづるまを待たぬ
音伝はつるまのま

見の扇をよめて 風乃後をさる
夏とはやまの端に秋風ひやう吹
あそびたんせの扇も雪をれば名残
もすまをさるて 秋風恨あり
あそびのまをさるあそびのまをさる
あれは今ほらあそびのまをさる

田にまゐるはれをさびしけりおりの
の娘女がまぞはびしき 陰おりける

月をりくしてぬおころお持ちもあまき

其の色きぬの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

秋風をひけを寝たをの

ふるさとの山をよみて　あふくはなつらぬ

大分持、
もくしうにむすめをよみて　おのれの心よけ

見えぬなほゆき　さかきまはらわれし

はては人の後を　あまき　なをたかひ

持し扇たれとも　笛し　たけのうらなわれ

たけのうらなわれ　海もあまの　あめ

あふく山に　あまき　あふく　あふく　あふく

あふく　あふく　あふく　あふく　あふく

あふく　あふく　あふく　あふく　あふく

あふく　あふく　あふく　あふく　あふく

あふく　あふく　あふく　あふく　あふく

あふく　あふく　あふく　あふく　あふく

あ

あ

月を^ハ出^ハせる^ハ扇^ハ此^ハ陰^ハの^ハか^ハく^ハた^ハる^ハ扇^ハの^ハひ^ハび^ハら^ハふ
 何^ハ乃^ハお^ハ為^ハある^ハん ^{同上}何^ハせ^ハよ^ハか^ハら^ハお^ハあ
 此^ハの^ハ盤^ハ上^ハ此^ハ松^ハ祿^ハせ^ハ一^ハ葉^ハり^ハの^ハ秋^ハい^ハり
 ち^ハん ^{同上}一^ハ葉^ハり^ハの^ハ秋^ハい^ハり
 山^ハ波^ハ越^ハる^ハ扇^ハの^ハひ^ハび^ハら^ハふ^ハん ^{同上}末^ハの
 松^ハ山^ハ波^ハの^ハ何^ハら^ハい^ハら^ハん^ハち^ハき^ハい^ハお^ハお^ハく

形^ハ見^ハの^ハ扇^ハの^ハあ^ハい^ハも^ハと ^{同上}身^ハふ^ハそ^ハく^ハ指^ハ一
 け^ハ扇 ^{同上}あ^ハ一^ハ此^ハ肉^ハよ^ハま ^{同上}ぬ^ハ出^ハせ^ハば^ハお^ハあ
 黄^ハ昏^ハに^ハる^ハの^ハ一^ハん^ハお^ハび^ハタ^ハ白^ハの^ハ花^ハ枝
 う^ハた^ハら^ハる^ハ扇^ハあり^ハは^ハよ^ハを^ハ推^ハ光^ハの^ハ扇^ハの^ハ持^ハき^ハく
 め^ハ一^ハく^ハあ^ハは^ハる^ハ扇^ハは^ハせ^ハん^ハや^ハも^ハた^ハら^ハぐ^ハふ
 それ^ハぞ^ハと^ハま^ハら^ハん^ハお^ハあ^ハの^ハ扇^ハ乃^ハつ^ハま^ハの^ハ形

380
178

著作權所有

昭和十三年一月廿五日印刷
昭和十三年一月三十日發行

定價金五拾錢

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地

著者 寶生新

東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流謄本刊行會

見了其と妹省の中此情なれ

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

終

